

佐渡裕芸術監督プロデュースオペラ 2026 歌劇「カルメン」

3月1日(日)チケット一般発売！

2026年夏、熱きマエストロ佐渡裕が贈るフランス・オペラの傑作 兵庫だけの特別な舞台

佐渡裕芸術監督プロデュースオペラ 2026 歌劇「カルメン」

特設ウェブサイト <https://www.gcenter-hyogo.jp/carmen2026/>

チケット発売日：

●一般発売 2026年3月1日(日)

●芸術文化センター会員先行予約開始 2月26日(木)B～E席、28日(土)A席

※いずれも午前10時発売

公演日程：2026年7月17日(金)～26日(日)全8回

※21日(火)、24日(金)は休演 各日 2:00PM

会場：兵庫県立芸術文化センター KOBELCO 大ホール

世界水準のプロダクションで毎年注目を集める、兵庫県立芸術文化センターの夏のオペラ。2026年にお贈りするのには、情熱の国・スペインを舞台にした傑作「カルメン」！名曲が彩る劇的なドラマは、古今のオペラの中で最も上演回数が多いオペラのひとつとされる。佐渡裕芸術監督のタクトのもと、17年ぶりに、この不朽の名作の新制作に挑む。

3月のチケット発売を前に1月中旬に行われた記者会見では、佐渡裕芸術監督、カルメン役の高野百合絵とドン・ホセ役のマリオ・ロハスが登壇し、意気込みを語った。



佐渡 裕(芸術監督・指揮)

芸術文化センター20年のあゆみ、そしてこれから

おかげさまで、芸術文化センターは昨年、開館20周年という節目を迎えることができました。本当に、ご来場くださる皆様のおかげです。心から感謝申し上げます。

今年21年目を迎えるにあたっては、20年間やってきたことをルーティンにしていくのではなく、新しいものにも挑戦していかなければなりません。プロデュースオペラとして「カルメン」を取り上げるのは2度目になりますが、前回の2009年と比べ、舞台が非常に斬新。演出家のロレンツォ・マリアーニさんとも色々話をし、世界中で多く見られる「カルメン」の、どれとも違う舞台になるだろうと確信しています。稽古が始まっていませんので、どういう舞台になっていくのか、どういうプロダクションになっていくのかというのは、正直まだわかりません。新しい演出家とやるということは、そういう緊張感があります。彼とはもう2度会いましたが、「非常にホットな舞台にしたい」と言っていました。僕もとても期待しています。

チーム戦で挑む、世界中で愛される傑作「カルメン」

「カルメン」はおそらく世界で最も上演回数の多い作品ではないかと思います。皆様も、楽曲をよくご存じでしょう。たとえば“前奏曲”は、コマーシャルなどでもよく使われますし、“ハバネラ”のメロディも、きっとどこかで耳にされているでしょう。まるでミュージカルみたいに、口ずさめるようなナンバーが目白押しに出てくるわけですね。「カルメン」が世界中で愛されて

いる理由のひとつは、そこにあると思います。

主人公カルメンは、人々を魅了する自由奔放な女性。高野百合絵さんが魔性の女かどうかはわかりませんが(笑)、お客様に、ドン・ホセの気持ちになってもらうというか、「この人のためなら人生を捨ててもいい」と思えるようなカルメンをやってくれるのではないかと非常に楽しみにしています。

また、今日来てくれたマリオ・ロハスさんは、プロデュースオペラ 2024「蝶々夫人」で共演しました。本日は、記者会見の冒頭で彼の歌唱を聴いていただきましたが、非常に伸びやかで素晴らしい声です。それに加えて本当に人柄がいいんですよ！ 彼がいるだけで稽古場が明るくなります。オペラはチーム戦ですから、そうしたムードメーカーがいてくれるということは、僕としてもすごく心強く思っています。

合唱については、ひょうごプロデュースオペラ合唱団に加え、一般公募も予定しています。例えば最後の闘牛士が登場してくるところなどは、大勢で盛り上がりたるところだと思います。この劇場の、一年で一番大きな舞台に、たくさんの方が参加できるようにしたいと思っています。

地域の人たちとともにあり続ける“祭り”としてのオペラ

PAC は若いオーケストラですから、ほとんどのメンバーが「カルメン」を初めて演奏することになります。実際の劇場で、オーケストラの稽古ができるというのは、芸術文化センターの大きな強みであり、それが夏のプロデュースオペラのクオリティをしっかりと保っていると思います。メンバーは、非常にフレッシュに、この作品に向き合ってくれるのではないかと考えています。

イベントなどいっぱいありますし、前夜祭にもぜひご参加いただきたいです。我々は、オペラがこの街にとって“祭り”になるように、という思いを持って取り組み、芸術文化センターは、地域の人たちと一緒に作っているんだよ、ということを常に意識しています。やはり劇場は、“心のビタミン”を届ける場所——良い演奏をするだけではなくて、もっと社会的にも意味のある存在でありたいです。



高野百合絵(ソプラノ/カルメン役)

私の運命を変えた作品——お客様の心に残る「カルメン」を

プロデュースオペラには、2021年に「メリー・ウイドウ」で出演させていただきました。その時は経験もほとんどなく、右も左も分からないような状態だったのですが、佐渡マエストロをはじめとする関係者のみなさんが、私を信じて導いてくださいました。そのときのたくさんの教えが、今の私の活動の基盤となっています。

芸術文化センターのプロデュースオペラは、私にとって特別な存在です。

その特別な場所でカルメン役を演じられるということが、非常に光栄で、嬉しく思っています。

「カルメン」という作品は、私にとって思い入れの深い作品です。実は私は、中学2年生の頃まではスポーツ少女だったのですが、ひょんなことから歌に出会い、オペラとはなんだろうと思って、順番に色々な作品を観ていた中で出会ったのが「カルメン」でした。情熱的な音楽、心踊るリズムに、鳥肌が立ちました。“ハバネラ”でカルメンが登場してきて、その強い存在感に目が釘付けになったんです。ずっと目が離せないまま、観終わった後には、「私、

これがやりたい！」と思いました。私の運命を変えてくれた作品です。カルメンという女性は、演じる人や演出、そして時代背景、共演者によって、魔性の女なのか、情熱的なのか、自由なのか、残酷なのか、もしかしたら良い人なのかもしれないという、色々なキャラクターを持った、答えのない女性だと思っています。ただ、ひとつ言えるのは、彼女は、自分が今どう感じているかということにいつも向き合い、ごまかさない人。たとえその結果が死に向かっていたとしても、そこから逃げない強さを持っています。彼女の覚悟に、私はいつも惹かれています。

今回は新制作ですので、自分の中にある「カルメンはこういう人」というのを一度手放して、稽古場の空気感や、共演者のみなさんとの間に生まれるものを大事にして、プロデュースオペラでしか生まれえないカルメンができればと思っています。そして、私が14歳の時、この作品に心を動かされたように、お越しいただくお客様の心に残る、強いメッセージ性を持ったカルメンを演じられたらと思っています。



マリオ・ロハス(テノール/ドン・ホセ役)

スペインにルーツを持つメキシコ人として

極限まで突き詰めて取り組みたいドン・ホセ役

※記者会見の冒頭、サプライズで「カルメン」より一節を歌唱してくれたマリオ・ロハスさん。会見では、母語・スペイン語でお話をしてくださいました。

プロデュースオペラ 2024「蝶々夫人」ピンカートン役で出演して以来、再び芸術文化センターに戻ってこられたことを、とても嬉しく思います。

私は、芸術文化センターとほぼ同じ、2006年に歌手になろうと自分の道を決めました。強い思いによって芸術文化センターが出来たのと同じ時期に、歌手になることこそが私の人生だと心を決めたのです。実は私は、小さい頃、闘牛士になりたかったのです。その夢が叶うことはありませんでしたが、闘牛士の友達はいっぱい居ます。今回は、そんな闘牛士が、私の演じるドン・ホセのライバルになります。闘牛士は、死と向き合って生きています。死は避けがたいものですが、私たちは一瞬一瞬を大切に人生を生きていますよね。今回の作品に向き合うにあたって、一瞬一瞬を大切に、いい仕事をしたいなと思っています。

ドン・ホセというのは、メキシコ人の私にとっても、非常に特別な役です。なぜなら、私は、スペイン人の孫であるからです。私の母方の祖父母はスペインから、より良い生活、人生を求めてメキシコに移住してきました。戦争が終わり、祖国スペインを離れ、メキシコにやってきて、非常に辛い生活をしてきたと思います。それでもなんとか道を拓いていった、私の祖先のことを思います。ドン・ホセは、それとはまったく反対の人物像ではないかと思うのです。

「カルメン」は、とても激しい物語です。「人間がどこまで行きつくことができるか」ということを表現しているオペラだと思います。私も、自分を見つめながらも、どこまで表現することができるか、極限まで頑張りたいと思っています。

佐渡裕芸術監督プロデュースオペラ2026

歌劇 カルメン

全4幕 / フランス語上演・日本語字幕付 / 新制作

魔性の女が誘う、甘美なる破滅。

「音楽」 ジョルジュ・ビゼー
「台本」 日・メイヤック、レテレワイ
「指揮」 佐渡 裕
「演出」 ロレンツォ・マリアーニ

公演概要

〔指揮〕佐渡 裕

〔演出〕ロレンツォ・マリアーニ

〔出演〕(ダブルキャスト)

カルメン: エカテリーナ・セメンチュク、高野百合絵

ドン・ホセ: ロベルト・アローニカ、マリオ・ロハス

エスカミーリョ: マハラム・フセインフ、高田智宏

ミカエラ: ヴァレンティーナ・マストランジェロ、迫田美帆

フラスキータ: 梨谷桃子、富平安希子

メルセデス: 山際きみ佳、林 眞暎

レメンダード: 水口健次、所谷直生

ダンカイロ: ロベルト・アックールソ、町 英和

スニガ: 伊藤貴之、湯浅貴斗

モラレス: 的場正剛、仲田尋一

パステシア: 相良アレキサンダー (全日)

[合唱] ひょうごプロデュースオペラ合唱団、ひょうご「カルメン」合唱団、ひょうごプロデュースオペラ児童合唱団

[管弦楽] 兵庫芸術文化センター管弦楽団



日程: 2026年7月17日(金)、18日(土)、19日(日)、20日(月・祝)、22日(水)、
23日(木)、25日(土)、26日(日)

各日: 2:00PM 開演

会場: 兵庫県立芸術文化センター KOBELCO 大ホール(兵庫県西宮市高松町 2-22)

入場料: A15,000円 B12,000円 C9,000円 D6,000円 E3,000円(全席指定・消費税込)

問合せ: 芸術文化センターチケットオフィス 電話 0798-68-0255

チケット発売日:

●一般発売 2026年3月1日(日)

●芸術文化センター会員先行予約開始 2月26日(木)B~E席、28日(土)A席

※いずれも午前 10 時発売

※インターネットでの購入は要会員登録(無料)

主催:兵庫県、兵庫県立芸術文化センター(制作)

「カルメン」特設ウェブサイト <https://www.gcenter-hyogo.jp/carmen2026/>
